

連載 海と船が見える坂道(みなと坂)24 北海道編①

室蘭港①

元 首席研究員 (現 八千代エンジニアリング 統括技師長) 吉田秀樹



1. はじめに

今回から北海道の「海と船が見える坂道」をご紹介します。(東北の塩釜港については時期を見て差し込みます。) 北海道の港の坂道については、函館港、小樽港が有名ですが、まず最初に今回と次回で室蘭港を紹介したいと思っています。

室蘭港の坂道はあまりなじみがないかもしれません。室蘭市役所のHPで坂道が13坂紹介されています。今回は「海と船が見える坂道」が集中している崎守地区、旧札幌本道地区を紹介します。(図-1) 次回は、google map 写真によるVR紹介の予定です。

見どころマップを示します。

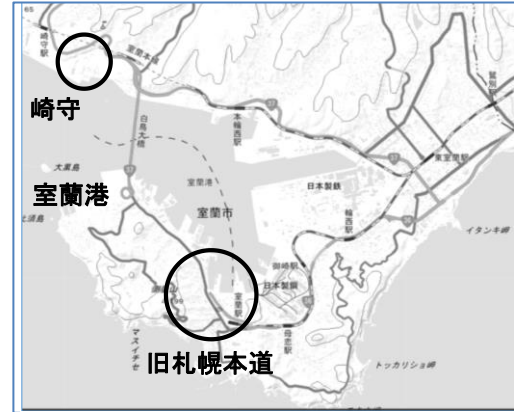


図-1 室蘭港と崎守、旧札幌本道地区

図-2に室蘭港崎守、旧札幌本道地区周辺の坂道と

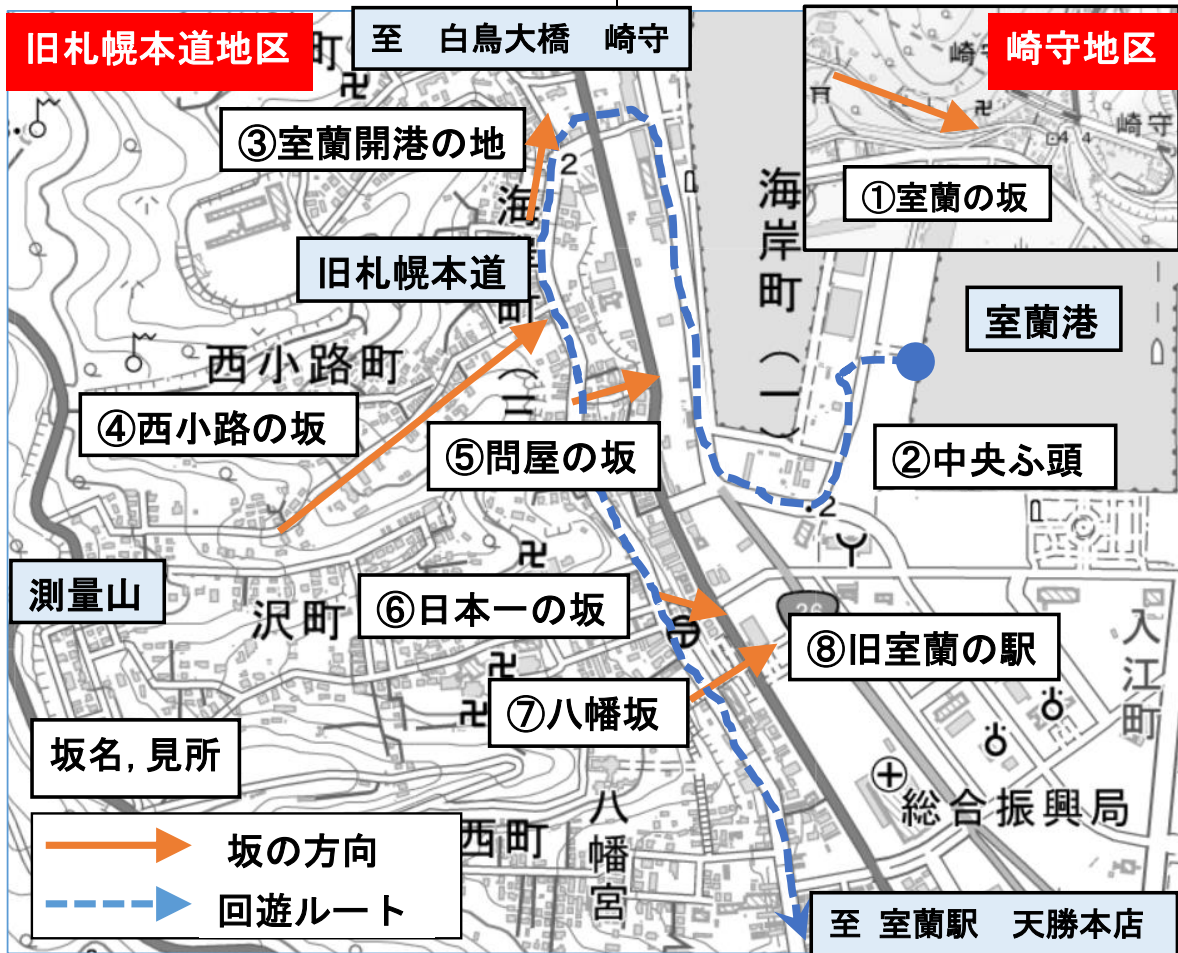


図-2 崎守、旧札幌本道地区の「海と船が見える坂道」など坂道と見所 国土地理院地図加工

2. 室蘭港の名前のある坂道

○室蘭港の歴史

苫小牧港、小樽港に比較し、室蘭港は現在では影が薄く感じるところがあります。しかし室蘭港の歴史を調べてみると北海道の歴史の勉強にもなります。歴史に登場するのは江戸時代、松前藩が運上屋を設置。1799年幕府直轄となり崎守のモロランに通行所(その後運上所)ができました。モロランが室蘭の名前発祥になったとか。

明治に入り北海道開拓の拠点として、函館一森～(船)～室蘭～札幌を結ぶ「札幌本道」が開通し賑わいました。しかしその後札幌に近い小樽港、戦後は苫小牧港と競争を繰り返すこととなります。

室蘭にとって重要な出来事は、1892年の北海道炭鉄鉱道の開通、1894年の特別輸出港、「井上角五郎」による1907年の民間製鉄所「日本製鋼所」の設立、1911年の鉄道院による西部埋立て・石炭棧橋整備です。意外なことに、1903年まで室蘭港は海軍軍港指定を受けて港の利用に制限があったのです。

○室蘭の坂道

室蘭市は、「ふるさと室蘭ガイドブック」を Web 上に発行し、その中で「室蘭の坂」を13坂紹介しています。「坂」を大切な資源としていることがよくわかります。今回は基本的にこれに沿っていきます。

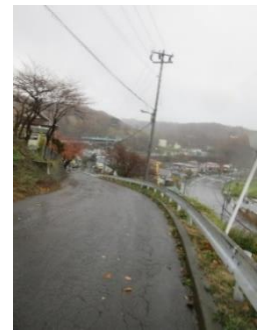
○室蘭のテレビロケ「Mother」

私が室蘭の坂道に興味を持ったのは2010年日本テレビ系列のドラマ「Mother」(主演:松雪泰子、芦田愛菜)で急な坂道を見たからです。(その時私は、北九州の街を思い出しました。)ロケ地は実は後ほど紹介する室蘭随一の「海と船が見える坂道」である「西小路の坂」でした。(詳細は参考文献参照)

○崎守の坂道

①室蘭の坂(ムロラン地名発祥の坂) 標高差25m

この地区は「モロラン」(アイヌ語の「モ・ルエラニ(小さな・下り路)」が変化したもの)と呼ばれ、1799年以降明治維新まで運上屋等が置かれ栄えたことから「室蘭」の発祥となりました。となりの谷戸へ山を越える坂道で「海と船が見える坂道」です。現在では眼下には埋立地と工場が見えます。おすすめです。



左上
室蘭の坂
ムロラン地名発祥の坂
右上
坂上からの様子
左
眼下には埋立地と工場

○「旧札幌本道」への路(白鳥大橋)

崎守地区から国道37号を走り旧札幌本道地区に向かいます。途中白鳥大橋を渡ります。室蘭港口部に位置する立派な吊り橋です。吊り橋から地平部に降りる時に小高い山が見えます。白鳥大橋展望台で標高26mです。階段も見え立派な「海と船が見える坂道」です。時間が無くていけませんでした。その麓には、北海道開発局の室蘭港湾事務所があるそうです。



白鳥大橋を仰ぐ

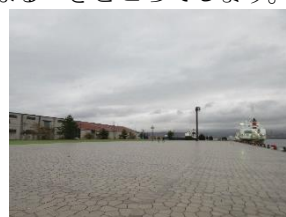


展望台と階段が見える

○「旧札幌本道」地区の坂道

②中央埠頭

さてこれから「旧札幌本道」地区の「海と船が見える坂道」を歩きます。まず、港の中心である中央埠頭から出発します。近くにはフェリーも見え、公園もあり、港湾庁舎もあり、背後に測量山(標高200m)と山麓に立地する住宅群が見えます。ここが賑わいの拠点になるべきところでしょう。





前ページ左上
広々な中央埠頭
前ページ右上
対岸にはフェリーが見える
左
背後には測量山

③室蘭港開港の地 標高差 10m

室蘭港開港の地から「協札幌本道」に沿って進みます。「旧札幌本道」地区の「海と船が見える坂道」です。この場所は、トキカラモイの入江で、1872年札幌本道として森と室蘭を結ぶ航路の栈橋ができました。ここから近代室蘭港がはじまりました。2022年室蘭は開港150年を迎えます。緩やかな坂道になっており、「海と船が見える坂道」です。近くには大正4年に建てられた旧三菱合資会社の建物もあります。



左上
室蘭港開港の標柱
右上
坂の途中から坂下の港を見る
左
旧三菱合資会社の建物

④西小路の坂 標高差 90m 勾配 23%

この坂が一番おすすめの坂です。もちろん「海と船が見える坂道」です。「旧札幌本道」から測量山(標高200m 札幌本道を作るための測量のため米国技師ワーフィールドが登った山)に続く坂道です。両側に宅地を確保するための安山岩やブロックの擁壁が多数あり、住宅が張り付いています。なんとと言っても23%の急こう配が見ものです。多分これまで見た全国の勾配標識の中では最急勾配ではないかと思えます。冬季のスリップ止めのためにロードヒーティングがあります。初めて見ました。さすが北海道。真っ直ぐな道で、室蘭港がよく見えます。このロケーションなので、テレビ「Mother」のロケに使われたのでしょう。ロケに使われた住宅も残っています。



西小路の坂の上り口 奥に測量山



坂途中から坂下を 港がよく見える



左上
勾配 23% 急だ
右上
ロードヒーティングの標識
左
住宅が張り付いている

⑤問屋の坂 標高差 10m

立派な石垣が印象的な「海と船が見える坂道」です。石垣の上には豪邸があり、坂道付近には問屋や人であふれていたとか。港が見えておすすめの坂道です。石垣は明治後半に作られたとか。



坂上にある案内板



坂上からの風景。港と石垣



坂下にも坂標がある



石垣は立派としか言い様がない

⑥日本一の坂 標高差 10m

「日本一」とは大きく出たもんだの坂道です。では何が「日本一」なのでしょう。簡単です。明治時代このあたりに「福井庵日本一」というそば屋があったからだとか。(私の生まれのそばのうまい福井から名をとったのか?) しかし縁起は悪く、そば屋の亭主は殺人犯で手配中。刑事が来たと勘違いをして自殺してしまったとか。この坂道は、真っ直ぐではなく S 字に曲がった階段坂道です。「海と船が見える坂道」です。



坂上には立派な案内板



階段が途中で曲がる



途中港が見える



坂下にも坂標がある。朽ちた家が怪しい

⑦八幡坂 標高差 10m

旧室蘭駅と「旧札幌本道」を結ぶ階段坂道。元々は、階段の周辺に問屋街があったとか。そのときは真っ直ぐな階段ではなくくねくねしていたとか。坂上からは、八幡宮に上る階段がさらに続く。坂上からは室蘭港が見渡せます。観光拠点である「旧室蘭駅」とセットにすることで室蘭の代表的な「海と船が見える坂道」スポットとなるでしょう。是非とも坂標がいるところで



左上 駅舎から見た八幡坂
右上 坂上からの風景は格別
左 坂上からは八幡宮へ階段が続く

⑧旧室蘭駅 登録文化財

旧室蘭駅は 1912 年建築。中は観光センターとなっています。現在の室蘭駅は遠くに移転し、周辺は寂しい限りです。坂道と一緒にぜひとも賑わい 拠点にしてほしいものです。

3. 終わりに

今回から北海道になりました。普通なら函館か小樽ですが、フェイントをかけて室蘭港にしました。室蘭には名のある坂道が 13 坂あります。意外です。また、室蘭市では坂道を大事にしていることがわかります。私の室蘭港訪問は、令和元年 11 月の寒く天気の悪い時期の短い時間でした。ぜひとももう一度晴れた時に時間をかけて歩きたいと思います。

また、今回の文章作成において、関口信一郎さんの「北海道みなとまちの歴史」が非常に役立ちました。小樽港、函館港でも最大限に利用させていただきます。

次回、室蘭の残りの坂道を、google map のストリートビューから探して VR 坂道探検をしたいと思います。また、室蘭のおすすめグルメも紹介できればと思います。

お楽しみに。

参考文献

○歴史

むろらん歴史街歩きガイド vol.1

2018.3

北海道みなとまちの歴史(関口信一郎)

2021

○坂道

ふるさと室蘭ガイドブック(室蘭市)

http://www.city.muroran.lg.jp/main/org1400/documents/16_03-11saka.pdf

まちぶら NAVI 室蘭市

http://kai-hokkaido.com/town_vol34_muroran04/

○ロケ地関係

Mother ロケ地ガイド

http://loca.ash.jp/show/2010/d201004_mother.htm

de-do|室蘭情報 日日は好日 ドラマ『mother』ロケ地巡り①

<http://de-do.com/?p=839>



井上角五郎 (むろらん歴史街歩きガイド)